

縄文時代の貝塚

(じょうもんじだいのかいづか)



空から見た山崎貝塚
(国指定史跡)

ここは、昭和 51 年(1976)に国の史跡に指定された山崎貝塚と呼ばれる、およそ 4000 年前～3000 年前(縄文時代中期～晩期)の遺跡を整備した公園です。

貝塚は、縄文人が遺した生活の跡(遺構)の一つで、貝をはじめとした食料の残りかすや、壊れた土器などを捨てた場所です。ただし、なかには縄文人の遺骸(いがい)が埋葬されていることもあるため、今のゴミ捨て場のようなものではなく、信仰の場所でもあったと考えられます。最近では、貝の加工場だったという説もあります。

明治 25 年(1892)、東京帝国大学助手の若林勝邦氏によって『東京人類学雑誌』に紹介されて以来、調査が重ねられてきました。なかでも、昭和 2 年(1927)の東京人類学会の発掘調査では、山崎貝塚にはアサリやハマグリなどの貝殻の層と、ヤマトシジミなどの貝殻の層がとても近い場所にあり、それぞれの貝層から見つかる土器の種類には、大きな違いがあることが確認されました。この違いは、それまで別の遺跡の調査で分かっていた、古い地層から見つかる土器の種類と、新しい地層から見つかる土器の種類の違いに、見事に対応することが明らかになりました。

気候が地球規模で暖かくなったときには、内陸まで海が近づいてアサリやハマグリなどがよく育ちます。それを食べていた人が、気候が寒くなって海が遠ざかると、海水と淡水が混じる場所に育つシジミなどをとるようになったのです。野田地方にも、かつては海水の進入した時期があり、徐々に海面が下がって遠ざかり、現在の地形になったことが証明されたのです。

山崎貝塚の貝層の違いは、地球規模の気候の変化が、縄文時代の自然環境や生活にも大きく影響したことを物語っています。その後も発掘調査が行われ、竪穴式の住居跡や、縄文人骨の発見といった大きな成果をあげました。

千葉県には、全国の 4 分の 1 の貝塚がありますが、市内では 217 の縄文時代の遺跡を確認し、うち 47 遺跡が貝塚を伴います。飯塚貝塚や槇の内貝塚(前期)、内町貝塚など多くの貝塚が遺されていますが、なかでも大型の馬蹄形(ばていけい)貝塚がつくられた、東金野井貝塚や野田貝塚(中期～晩期)などは、山崎貝塚とともに、全国的にも有名な縄文時代の貝塚です。

詳しくは...

* 下津谷達男他 2004「座談会 野田を語る 発掘ことはじめ 野田地方考古遺跡の発掘調査黎明期」『野田市史研究』第 15 号 野田市

山崎貝塚の出土土器



NHK がテレビ放映した中野台三昧寺貝塚の発掘現場（郷土博物館所蔵・昭和 34 年）



昭和 2 年 (1927) 年における東京人類学会の遠足会の様子

(八幡一郎 1927「本会遠足会」『人類学雑誌』より引用)

貝種の違いと土器との関係に着目するきっかけとなった山崎貝塚町調査の様子

「十月二十三日、上野駅に参会者一同集合して八時四十五分発の列車に乗込んだ。(中略)梅郷駅下車、マッチ箱の様な車から吐出される装固き面々や、紅紫とりどりの女学生諸君で小さな駅は忽ち一杯になる。軒毎に物珍しげに立つ人々の間を、長蛇の列を作して貝塚まで約二十分行程。(中略)

貝塚の発掘予定地に到着。直ちに一同発掘に掛かった。(中略)瞬く間に此処彼処に穴が穿たれ、貝が積まれた。学会で発掘する東寄りの方は鹹水(かんすい)産の貝殻が大部分を占め反対の西寄りの方は淡水産の貝殻が大部分を占めている。この様に僅か許りの距りで貝の種類が著しい対照をなすのは面白い。併し解釈する事はむずかしい。次第に掘り出される遺物類を観ていると大体に於いてこの両地点に可成の差異が認められそうだ。鹹水産貝層には比較的遺物の量も種類も乏しい。何にかここに理屈を拈出しようとしてクロノロジスト K と二人で都合のよさそうなものを探し廻る。イノシシの頭骨が殆んど完全に出てくる、土器の蓋らしいものがある、滑車形耳飾がある、精巧な石斧がある、併し矢張土器の破片へ一番我々のイリュージョンをかける。発掘隊の額の汗に、写真班のカメラの銀金具に、嬋娟たる女学生諸君の上に秋の日がのどかに渡り、雲はいつしか離れていった。(以下省略)」

鹹水：淡水が混じった海水。(河口付近の海水)